県民だより
あおもり
2017 12月号
NO.166

CONTENTS | 目次

特集 ▶P2-5
人口減少克服
～地元で働く魅力ってなぁに？～
旬を食べよう。あおもり食材で簡単ヘルシークッキング／
青森きらりイッピン 私が出会った青森のイッピン ▶P6
青森の未来に全力！県職員最前線レポート
『身近に感じて！世界の三内丸山遺跡』／
良医を育む地域・あおもり／
青森県職員の給与と職員数のあらまし ▶P7
申吾のほっとコラム／あおもりインフォメーション ▶P8

青森きらりイッピン

農民の知恵から生まれた「南部菱刺し」

八戸市など南部地方に伝わる「南部菱刺し」。その歴史は、今から200年以上前にさかのぼります。麻の着物しか許されなかった当時の農民たちが、保温と補強のために麻布に木綿糸を刺し綴ったのが始まりとされ、青森県の伝統工芸品に指定されています。

津軽地方に伝わるこぎん刺しも農民の暮らしの中から生まれた刺し子のひとつですが、こぎん刺しは麻布の奇数目を数えて刺すのに対し、南部菱刺しは偶数目を刺すのが特徴。また、こぎん刺しは濃紺の麻布に白い木綿糸で刺すのに対し、南部菱刺しは、浅葱（あさぎ）色の麻布に白や黒の木綿糸で刺すことが多かったようです。

明治に入り、東北本線が開通し、さまざまな物資が運ばれるようになると、南部菱刺しは転換期を迎えます。大正時代には、毛糸で刺したカラフルな「菱刺し前掛け」が一大ブームとなりました。

このように、時代とともに変化してきた南部菱刺しですが、現在は、布全面を刺し埋める「総刺し」ではなく、バッグなどにワンポイント的に刺すカジュアルなスタイルが人気を呼んでいます。平成24年、南部菱刺しを気軽に楽しみながら地域の文化を継承していきたいと、八戸市の有志らが「南部菱刺研究会」（山田友子代表）を結成。「八戸ポータルミュージアムはっち」や地元の学校などで、ワークショップを開催しています。かつて、人々が生きるために刺し綴った南部菱刺しは、今、時代を超え、“古くて新しい”お洒落アイテムとして暮らしを彩っています。

▼関連記事はP6で